

晩婚化・非婚化の要因の男女差に関する実証的分析

豊島清花

1 はじめに

今日、日本の少子化は進む一方である。2004年の合計特殊出生率は1.26となり、人口置換水準を大きく下回っている。この少子化の要因とされているのが晩婚化・非婚化である。

晩婚化・非婚化の要因として女性の社会進出、フリーターやニート、パラサイト・シングルが増加などが挙げられている。先行研究は女性に注目したものが多く、男女の違いに注目したものは少ない。男性の要因を探っているものでも計量的に分析をおこなっているものはない。

そこで、本研究では晩婚化・非婚化の要因を男女の違いに注目し、パラサイト・シングルの問題を中心に計量的に分析していきたい。

2 分析

2.1 仮説と分析結果

パラサイト・シングルは晩婚化・非婚化の要因となりうるのかを検証したい。日本版 General Social Surveys < JGSS-2003 > のデータを用い、国勢調査と人口動態統計から各年齢の未婚率を計算し、1から引いたものを従属変数「未婚の問題度」とし未婚者のみ男女別にわけ回帰分析をおこなった。分析した結果以下ようになった。

表1 男性の未婚の問題度の回帰分析

独立変数	B(標準誤差)		標準化係数
パラサイト	.058(.032)		.095
学歴(本人)	.037(.016)	*	.096
常時雇用	.116(.034)	**	.194
市郡規模	-.054(.020)	**	-.115
年齢	.022(.001)	***	.964
パラサイト かつ常時雇用	-.080(.045)		-.117
調整済み R^2	.880		
F 値	107.513	***	

$N = 269$. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

表2 女性の未婚の問題度の回帰分析

独立変数	B(標準誤差)		標準化係数
パラサイト	.112(.029)	***	.188
学歴(本人)	-.010(.019)		-.023
常時雇用	.190(.045)	***	.345
市郡規模	-.011(.017)		-.025
年齢	.015(.001)	***	.849
パラサイト かつ常時雇用	-.157(.052)	**	-.276
調整済み R^2	.672		
F 値	78.450	***	

$N = 232$. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

2.2 考察

パラサイト・シングルという変数だけではなく、晩婚化・非婚化の要因として重要であるとされる他の変数も投入し、更に統制変数も一緒に入れた結果、男性は「学歴」「常時雇用」「市郡規模」が有意となり、女性は「パラサイト・シングル」「常時雇用」が有意となった。

パラサイト・シングルの女性のほうが単身の女性より未婚の問題度が高くなる。つまり晩婚化・非婚化の傾向にある。また、他の変数については先行研究でいわれていたことが裏付けられた形となった。

3 まとめと今後の課題

今回分析したことによって、晩婚化・非婚化の要因には男女差があることがわかった。パラサイト・シングルの男女差について、なぜ女性のみ有意かを他の意識変数の点から分析してみた。しかし有意な結果を得ることはできなかった。

今後の課題として、パラサイト・シングルかどうかがなぜ女性にのみ効くのかを実証的に分析していく必要があるといえる。また、日本だけではなく諸外国との比較も必要だろう。